

# 明るい『訪問介護』 ニュース

No.004 2014年5月号

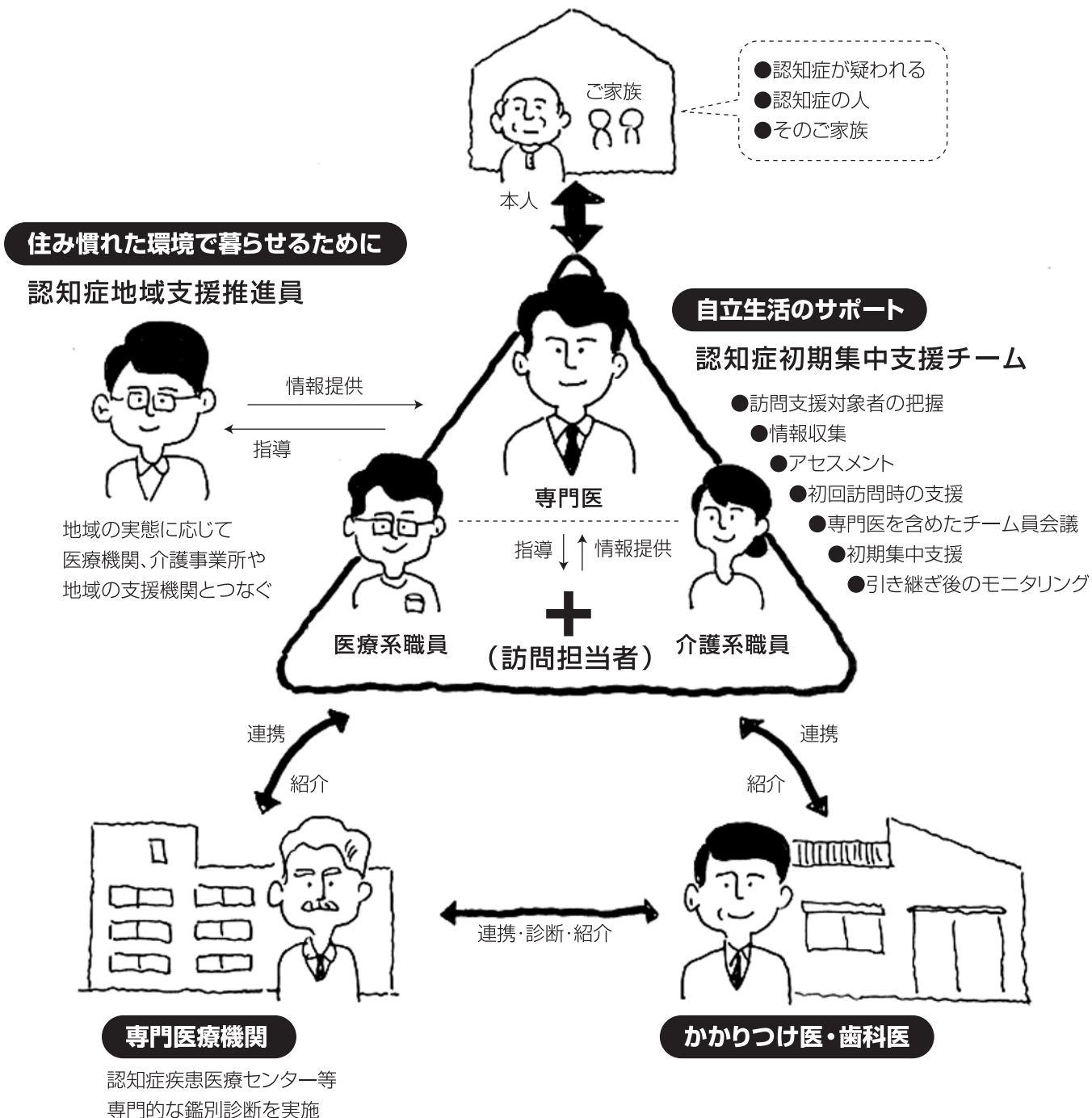
発行：特定非営利活動法人つむぎ  
〒632-0074 奈良県天理市東井戸堂町372-1

# 認知症をもっと 「自分ごと」として

高齢化が進むと、認知症患者の増加も不可避となります。厚労省のまとめでは、認知症の有病者は約439万人（H22年）となっておりますが、さらに約380万人といわれる認知症予備軍を含めると、高齢化社会とともに「大認知症時代」の到来と言わざるをえません。今後ますます増加するであろう認知症患者の対策として、厚労省は新たな認知症支援の施策をすすめています。その理想形を把握した上で私たち訪問介護業界はどう対応すべきか検証してみましょう。

## 厚労省の描く、認知症支援施策

認知症になっても本人の意思が尊重され、住み慣れた地域で暮らせるために。



## 「大認知症時代」へ — 訪問介護事業のあり方



誰しもが「老眼」になるのと同じで、「認知症」は加齢にともなって誰しもがなりえる病気です。

たいせつなのは、認知症になる以前の「兆候」です。

早期に「きざし」を見つけ、専門員に相談すれば、認知症のリスクもずいぶん軽減され、改善される可能性が高まります。

でも「自分が認知症になる」なんてこと、誰もが向き合いたくない事実であり、誰もが恐れていることです。その「心の壁」が、早期改善を妨げる要因になってしまうとすれば…。

### 認知症サポーターの育成

国の具体的な施策として「認知症施策推進5カ年計画」の中に、

地域のかかりつけ医の育成とともに「認知症サポーター」の育成もかかげられています。

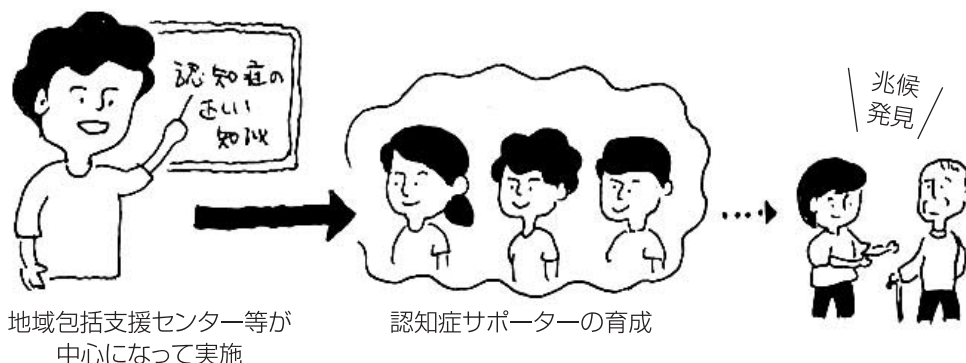
認知症はなにも特別な病気ではなく、誰にでもなりうる病気。

他人ごととしてではなく、自分ごととして捉えることの必要性。

だからこそ早期に兆候を見つけ、事前的な対応を推進する。

そのために「認知症についての正しい知識」こそが、これからの社会に求められることです。

介護に係るサービスを行っている私たちも充分知識を高めることが必要ですね!



明るい訪問介護プロジェクト <http://www.tumugi-homonkaigo.com/>

やること、多すぎ…

詳しくは上記webサイトへ!

## 業務の「ムダ」、 効率の「ムダ」、 見直しませんか?

訪問介護の「現場」で生まれた、「現場」のための業務支援ASP

## 無駄ヘルサポート

- 訪問介護の業務にかかわるあらゆる帳票をサポート。
- シフトの作成が簡単、ヘルパーの稼働率アップに!
- 操作も簡単、インターネットにつなぐだけですぐにご利用可能。
- 必要なデータは、ボタン一つで印刷可能。